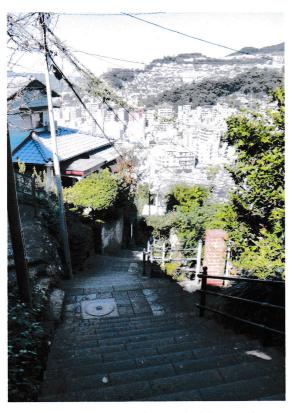
宿に戻って17時でも西日本はまだ十分明るいので、元気な5人だけだが近くの風頭山公園へ散歩に行った。巨大な坂本龍馬像が腕を組んで港を眺めているのと同じポーズで写真を撮ったり、もう閉まっていたが龍馬たちが作った日本初の貿易商社である亀山社中を訪ねたりしてきた。山の頂上なのでほとんど平らのはずだったが、



急な階段を上ってきても のすごく大変だった4年 前の逆コースだから楽だ と思っていたのに、けっ とり下りあってしまっ なに悪いことしてしまっ たと後悔したが、「楽し かった」とは言ってもら



えなかったものの、坂の町で知られる長崎を体感できて「いい思い出になった」と言ってもらえてよかった。宿に着く直前の店で売っていた小粒ながら10個以上入って100円というみかんで渇きを癒すことができた。4年前と同じように甘くてみんなにも喜んでもらえた。

夕食後に世界新三大夜景となった稲佐山からの夜景を 見に行くつもりだったが、タクシーが手配できなかった ので、宿の最上階で夜景を見ながら打ち上げをすること になった。ホテル弥太樓は稲佐山の反対側の風頭山頂に

あってロビーが9階という斜面に立っているので、稲佐山に負けないくらいの夜景をつまみに8人でワインを8本も空けてしまった。特別に使わせてもらえるよう交渉してくれた上に支払いまでしてくれた花房さんに感謝。

その酒宴で、「マネージャーの後藤さんのお陰でこのねんりんピックへの参加をはじめ小樽などの遠征に行ける」と感謝の言葉が相次いだ。毎日一日の半分くらいを様々な事務に費やしているそうで、本当に大変な役割である。「もう誰かに譲りたいが、勤めをしている人に任せるのは忍びない」と悩んでいる状態だという。私も箕郷還暦野球チームの事務局をしているのでよくわかるが、難しい問題だ。ついでに「丸山旅行社のお陰であちこち観光ができてうれしい」と感謝の言葉をいただいたが、私が好きでやっていることでみなさんに喜んでもらえることで私も喜びを感じているのだ。逆に私は「最年長の75才でありながらフル出場し、スクラムハーフとして必ずポイントからポイントまで走り、腰をしっかり落として正確なパスをしている下山さんをたたえたいと思う」と発言した。みなさんも同感だと言ってくれた。私のモットーとしている「あせらず、あわてず、あきらめず」をみごとに実践しているので、尊敬するとともにお手本にしたいと思っている。

最終日はバスで太宰府天満宮に寄っただけで、福岡空港から帰路についた。お参りは簡単に済ませ、念願の国立九州博物館に走ったが、「鳥獣戯画」展をやっているせいか平日にもかかわらず入館まで30分待ちとあってあきらめた。そこでさだまさしの「飛梅」という曲に出てくるお石茶屋の梅ケ枝餅を食べに行くと店休日だった。37年前の新婚旅行で食べたのに残念だ。しかたないので他の店のものでがまんした。

ラグビーも観光も満足な旅だったが、最後が尻つぼみだったのがちょっと残念。来年のねんりん ピックは秋田県、私の亡き父の故郷だ。また丸山観光社が活躍することになることだろう。